



平成 30 年 2 月 6 日

## 記者説明会（2月9日14時・東広島）

### 広島大学学生・卒業生らが制作した魚類図鑑 「緑の火山島 口永良部島の魚類」を出版

#### 【本研究成果のポイント】

- 2014、2015年に噴火災害に見舞われた鹿児島県口永良部島の復興支援のため、本学学生を中心とした研究チームが魚類図鑑を出版しました
- 本書は口永良部島島民、屋久島町内外の教育・行政機関などに寄贈し、島内での教育、伝統継承にも活用されることを期待しています
- 一般的な図鑑の体裁にくわえて口永良部島の風土・文化などにまつわるコラム、島民へのインタビュー記事を掲載し、島の魅力をアピールしています
- 2011-2017年にかけて同島で行われた調査によって、これまでに知見の乏しかった同島周辺海域から新種を含む約700種の魚類を報告しました

#### 【概要】

広島大学大学院生物圏科学研究科生物資源科学専攻水圏資源生物学研究室の学生、卒業生らが中心となって鹿児島県口永良部島の魚類図鑑を出版しました。

鹿児島県口永良部島では2014、2015年に爆発的噴火が発生し、大きな被害を受けました。当研究室は口永良部島で1970年から魚類生態研究を実施しており、復興支援と今後の発展のために魚類図鑑の出版を企画しました。

他研究機関および島民との共同研究によって口永良部島から686種を確認し、その全魚種の写真を掲載しています。また、研究者、学生が書き下ろした魚類に関するコラムや口永良部島島民の方々による歴史・生活・風土がうかがえる寄稿文やインタビューも多数掲載し、島外への魅力のアピール活動に役立つとともに、島内での教育、伝統継承にも活用されることを期待しています。

このたび、本の出版を記念し、下記のとおり、記者説明会を開催しご説明いたします。

ご多忙とは存じますが、是非ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

#### 記

日 時：平成30年2月9日（金） 14時 ～ 14時40分

場 所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟4階 4F会議室

出席者：広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程後期2年 坂上 嶺  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 小出 佑紀  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 岡本 直大  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 上原 大知

## 【書籍情報】

書籍名：緑の火山島 口永良部島の魚類

編者：木村祐貴、日比野友亮、三木涼平、峯 健、小枝圭太

著者：坂上 嶺※1、芦野洸介※1、稲葉智樹※2、小出佑紀※1、松尾 怜※3、  
岡本直大※1、小山内泉帆※1、上原大知※1、和田英敏※4、葛原裕恒※1、藤本将也※1

※1：広島大学大学院生物圏科学研究科、※2：鹿児島大学大学院水産学研究科

※3：三重大学大学院生物資源学研究科、※4：宮崎大学大学院農学研究科

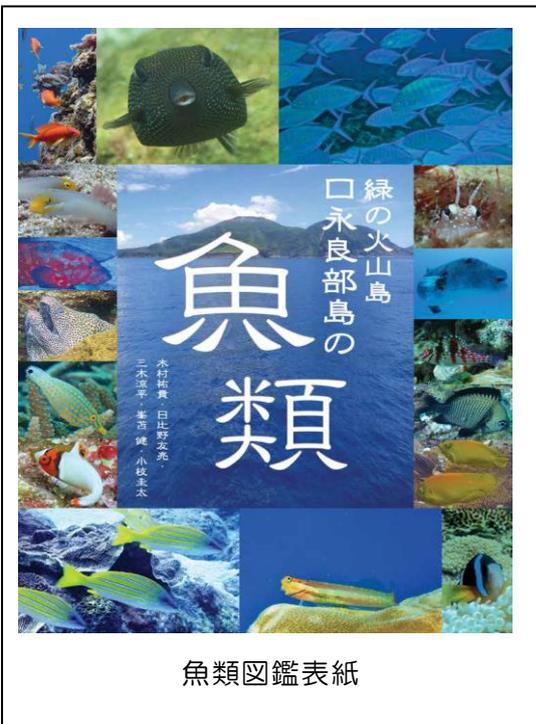
ISBN：978-4-905464-10-5

価格：2000 円（送料込）

※本書は書店等では販売していません。本書が必要な場合は、以下のメールアドレスに必要事項（名前・住所・希望冊数）を明記の上ご連絡ください。

Mail：erabuzukan@yahoo.co.jp

（既に生産を終了しておりますので在庫のみの取り扱いとなります）



魚類図鑑表紙



魚類図鑑の制作メンバー

## 【背景】

鹿児島県口永良部島は屋久島の北西 12km に位置する人口 100 人ほどの火山島です。当研究室は 1970 年から現在まで口永良部島で魚類生態研究を行い、多くの学術的成果を世界に向けて発信してきました。そんな中で発生した 2014、2015 年の爆発的噴火は大きな被害をもたらし、2015 年の噴火の際には半年以上にわたって全島民が避難生活を強いられました。当研究室ではチャリティー T シャツを販売し、収益をすべて義援金として寄贈するなどの支援活動を行ってきました。

現在では復興が進み、島民の方々の生活は元に戻りつつあります。しかし世間の口永良部島に対するイメージは「噴火している危ない島」でまだ止まったままのように思います。この問題を解決するためには、口永良部島の現在の姿を伝えるとともに、島の魅力を広く発信していくことが求められます。

そこで、口永良部島の魅力の一つである海、生息する魚類の多様さをアピールすることを目標とし魚類図鑑の出版を目指してきました。

## 【研究成果の内容】

この図鑑は 2011–2017 年にかけて当研究室の学生、他研究機関の若手研究者、学生および口永良部島島民の有志によって行われた魚類相（※1）調査の成果になります。本調査では 24 目 115 科 317 属 686 種の魚種を確認し、その中には新種であるエラブスミヤキ *Neopinnula minetomai*（※2）の発見や、これまでに日本国内で数個体しか確認されていない希少種の発見なども含まれ、学術的にも大変意義深い成果を挙げました。

本書は、図鑑パートにくわえて研究者、学生が書き下ろした魚類に関するコラムや口永良部島島民の方々による歴史・生活・風土がうかがえる寄稿文やインタビューも多数掲載しています。このような構成の図鑑は一般的にも珍しく、口永良部島で長年研究を続けてきた当研究室ならではの着眼点といえます。

なお、2016 年 8 月に同島で魚類相調査を実施した際には、島内の小中学生を対象とした海洋学習会を開催し、普段研究者が行っている調査の体験学習を実施しました。

また、同日に大人も対象としたセミナーを開講し、研究者と学生らが最新の研究成果や口永良部島の魚類相の特徴などについて紹介するなど、地域の方との交流も行ってきました。

## 【今後の展開】

今後は本書を観光産業、教育、伝統継承などに活用していただけるのではないかと期待しています。同時に魚類学および生物地理学への活用も期待されます。本書にはこれまでに口永良部島で確認された魚種が写真とともに掲載され、採集した標本はすべて各研究機関で保管されています。今後、地球規模の環境変化による魚類の生息状況の変化を明確に捉えるための貴重な情報として活用されます。

## 【用語解説】

### （※1）「魚類相」

魚類相とは、ある地点に生息する魚類の組成を指す用語です。つまり、魚類相調査とはある地点の魚種組成を明らかにするために行われる調査です。

### （※2）「エラブスミヤキ」

2014 年 1 月に口永良部島漁業者と当研究室の学生（当時）が口永良部島沖の水深約 400m から釣獲した個体をもとに研究が進められ、日本魚類学会の英文誌「Ichthyological Research」に新種として掲載されました。本種はスズキ目クロタチカマス科に属し、眼窩径が著しく大きいこと、下顎先端部に発達した犬歯状歯を欠くことなどで既知種とは明瞭に異なります。

論文情報 Nakayama, N. Kimura, Y. and Endo, H. 2014. *Neopinnula minetomai*, a new species of sackfish from off Kuchierabujima Island, southern Japan (Actinopterygii: Gempylidae). *Ichthyological Research*, 62: 320–326.

## 【図鑑に関するお問い合わせ先】

大学院生物圏科学研究科 博士課程後期 2 年 坂上 嶺（さかのうえ れい）

E-mail : [rei-dascyllus@hiroshima-u.ac.jp](mailto:rei-dascyllus@hiroshima-u.ac.jp)

※学会準備・研究活動等があるため、お問い合わせ先はメールのみとなります。予めご了承願います。

## 【記者説明会に関するお問い合わせ先】

広島大学財務・総務室広報部広報グループ

坂本 晃一（さかもと こういち）

Tel : 082-424-6131 E-mail : [koho@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:koho@office.hiroshima-u.ac.jp)

【FAX返信用紙】

Fax：082-424-6040

広島大学財務・総務室広報部広報グループ 行

記者説明会（2月9日14時・東広島）

広島大学学生・卒業生らが制作した魚類図鑑  
「緑の火山島 〇永良部島の魚類」を出版

日時：平成30年2月9日（金） 14時 ～ 14時40分

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟4階 4F会議室

出席者：広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程後期2年 坂上 嶺  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 小出 佑紀  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 岡本 直大  
広島大学 大学院生物圏科学研究科 博士課程前期2年 上原 大知

ご出席

ご欠席

貴社名 \_\_\_\_\_

部署名 \_\_\_\_\_

ご芳名 \_\_\_\_\_ (計 名)

電話番号 \_\_\_\_\_

※お手数ですが準備の都合上、出席予定の報道機関の方は上記にご記入頂き、  
2月8日（木）17：00までにご連絡ください。

発信枚数：A4版4枚（本票含む）